

# 2月の果実の見通し

平成30年1月23日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類		9,941	62%	10,025	302	127%	270	-	-	主力となる静岡県産「青島」は裏年で生産量は前年より大幅減。年内からの品薄で1月からも高値が継続されており、2月も価格高の状況となりそう。荷動きは良くないが、品質良くイタミ等の発生も少ないためにある程度の棚ぞろえとして着実な販売が展開されよう。みかん類全体に出回り量は少なく、徳島や香川の普通温州の引き合いも強い。
いちご類		4,848	94%	4,205	1,260	100%	1,298	-	-	前年は1月下旬から2果房の出荷が始まり、2月中旬から各県が揃って出荷増大したことで相場を大きく乱した。本年は1月の寒波によって若干生育遅れが出てきているが、2月に入ってから徐々に収穫量は増えてくる。中旬からは各県の出荷量がピークを迎える迎えるが、前年ほどの出荷量はないと見ている。晴天が続くことによって2果房から3果房と連続した出荷が期待できる。
キウイ		796	106%	869	524	99%	452	-	-	当初は1月いっぱいまで残る見込みだったニュージーランド産が12月後半になって品質不良が見られ、早めに切り上がってきたことで状況は変わってきた。年明けから国産の大玉果中心に引き合いが強まってきており、2月になれば完全に国産主体の販売となる。先を見越して安定的な入荷・販売となる見込みで、出回り量は前年より多いが、単価は前年並みで堅調推移。